
とある転生者の言霊使い(スペルワード)

柿木猛

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある転生者の言霊使い（スペルワード）

【Nコード】

N2906BA

【作者名】

柿木猛

【あらすじ】

学校帰りに死んだ俺は、神の間違いで死んだ事を知る。謝罪として、前世の記憶と望み1つを叶えてもらい、新たな世界に転生する。その世界は、学園都市で―――。

原作崩壊

多少の矛盾

など、多々存在します。

それでも大丈夫な方はお読み下さい。

他の小説の息抜きに書いているので、更新は遅いです。

無断で編集する可能性があります。ご了承ください。

0話 プロローグ

「ごめんね、間違えて君が死んじゃった☆いや、一ノ瀬いちのせ一はじめっていう、同一名称の人が近くにいるとか思ってたし〜。本当ごめんね♪」

言葉だけで謝罪の気持ちがかもっていない謝罪をするチャライ神。

台詞に星マークとか音符マークまでつけやがってるし。

落ち着け、落ち着くんだ俺。

殴りたい。目の前にいるチャラ神を殴り倒したい。

チャラ神と会っているのも理由はちゃんとある。

俺は死んだ。

確かに今まで幸運はなく、不運しかなかった……。

俺がここにいる理由を説明するのに、少し前の状況を説明したほうが早い。

「ありがとうございました、またお越し下さい。」

近くの大型書店で学校帰りに本を買い、自宅に向かっている途中、

フラフラする自転車が――

俺にぶつかる。

「クソガキが。気をつけろ!!」

理不尽な文句を吐き捨てると、フラフラしながら進む自転車。

まあ、俺にとっては、割とよくある事なのでスルー。

しかし、不運はこれだけでは終わらない。

この衝突で、

俺は道路に押し出され、

目の前に――、

トラックが……。

「本当はね、あのぶつかった人が事故をするはずだったんだけど。運がないね、君。」

ブチ。

俺の堪忍袋が切れる音が聞こえた。

うん、流石にキレていいよね。

ってか、もうキレたよ。

「オイ、神様よ。間違えて死んじやった☆じゃねえよ。アア！？運がない。じゃねえよ。さっさと、生き返らせろ！！」

「そんな怒鳴るなよ。流石に僕も悪いと思ったから、生き返らせるよ。世界は選べないけど、生き返る時、前世の記憶と何か望み1つ叶えるよ。」

グダグダ言うのも、無駄のようなので、

「チートの能力をつけろ。」

「漠然としすぎだよ。もう面倒くさいから、適当にき」なら、言霊を使えるようにしろ。それなら、運も関係ない。」むう。それぐらいなら。じゃ、新しい世界で頑張って。」

指を鳴らすと、俺の視界が暗くなる。

危ない。勝手に決められる所だった。とりあえず、不運は嫌だからな。

まあ、新しい世界では特殊能力を持ってるし、第2の人生を楽しむか。

「そうそう、勝手に僕の話遮ったから、君の性別変更ね。」

やっぱり、あいつ今度ボコる!!

目が覚めると知らない天井を見つめている訳で、

「はあ、まず此処はどこだ？」

とりあえず現状を確認するため、ベランダに出てみると、隣の部屋から大声が。

「不幸だ~~~~!!」

.....え？

この声を聞き、脳が働き出すまでに、この場所を理解するのに、3
0秒位かった。

この台詞、声。
上条当麻!?

もしかして、此处、学園都市――――?

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2906ba/>

とある転生者の言霊使い(スペルワード)

2012年1月7日15時58分発行